



市障害者互助会は6月3日、市立鳥羽小学校の体育館で体育祭を開催しました。

このイベントは、市内在住の障がいをもつかたがスポーツを通じて地域のかたとの交流を図ることを目的として毎年行われており、今年も約80人のかたが参加しました。

参加者はボランティアのサポートを受けながら、玉入れやバケツリレー、パン食い競争など、全12種目の競技を楽しみ、会場からは「がんばれー」の声援が送られていました。

みんなで力を合わせて



市立弘道小学校の体育館で6月3日、ロータリークラブや市国際交流協会などが共催で「第9回インターナショナルだよ鳥羽の子ども達」を開催。市内小学校と保育所の児童35人が参加し、アメリカ、インド、メキシコなど7か国からのALTのみなさんや市内在住の中国のみなさんたちと交流を深めました。

「国際力を養い、世界に通じる人に育ってほしい」との願いが込められたこのイベントで、こどもたちは屈託のない笑顔で外国人のみなさんと触れ合い、いろいろな国の言葉や文化について楽しく学んでいました。

せんせいの国はどことあるの？



鳥羽一丁目の鳥羽マリターミナルで6月16日、鳥羽マリフェスタ「天気になーれ てるてる市」があり、地元の農林水産物や加工品の販売が行われました。

また、この日のために市内保育所の児童が手作りしたてるてるぼうず約400体が展示された会場では、安楽島保育所児童の踊りや久葵連によるよさこいの発表なども行われ、大勢の来場者で盛り上がりました。

てるてるぼうずがお出迎え



東海3県の環境団体などがつくる「22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会」は6月9日、答志島奈佐の浜で海岸清掃を行いました。

伊勢湾の漂着ごみは年間約11,000トンあり、そのうち約3,000トンが答志島周辺に流れ着くといわれています。この日、「答志島の漂着ごみの実態を知ってもらい、みなさんにできることを考えてもらえば」との想いで参加した東海3県からのボランティア300人は、約15トンの漂着ごみを拾い、奈佐の浜はあっという間にきれいな海岸に戻りました。

答志島の漂着ごみをなくそう！